

川崎市青少年育成連盟 (社)川崎市子ども会連盟・ボーイスカウト川崎地区協議会・ガールスカウト川崎市連絡会・川崎海洋少年団

育連だより

<http://web-k.jp/ikuren/>

「育連だより」 50号記念版発行にあたり

理事長 木村 耕三

「育連だより」の第1号は平成2年3月31日に当時の理事長の増子正宏氏が編集発行人として発行され、以来絶えることなく年2回の発行を25年間継続され今回50号を発刊する運びになりました。これは先人の方々のこれまでのご尽力の賜物と心より厚く御礼申し上げる次第です。

川崎市青少年育成連盟は、昭和21年の戦後の動乱期に青少年育成を目的に「青少年補導連盟」として発足し、その後昭和40年に「川崎市青少年育成連盟」に改称されました。

「川崎市青少年育成連盟」は川崎市子ども会連盟、ガールスカウト川崎市連絡会、川崎海洋少年団、日本ボーイスカウト川崎地区協議会の4団体で構成されており、主な活動は「中高校生リーダー研修会」「青少年国際交流事業」に加えて「成人の日を祝うつどい」「青少年フェスティバル」などの支援事業を行っております。

現在、青少年を取り巻く環境は大きく変化しています。構成する4団体はともに少子化、趣味の多様

化、進学、クラブ活動等により構成員の減少が続いており大きな悩みであります。

しかしながら行政や学校、市民の方々からは育成連盟4団体には団体生活、野外活動等の体験を通じて子ども達の躰、健全性、自主性、人間性、情操教育等々大いに期待されています。また、文部科学省も青少年団体には家庭教育、学校教育とは異なる青少年教育に役立つことを期待されています。この様な時こそ「育連だより」は情報発信の手段として、情報の共有化としてその使命は益々重要性が高まっていると強く認識しています。

この「育連だより」が加盟4団体にとって相互の飛躍、発展に資すると同時に、対外的に発信する手段としてこれからも発行し続けることをご祈念申し上げます。



ドッジボール大会

幸区子ども会連合会 古市場ドッジボール部 6年生一同

平成27年3月1日(日)、幸区子ども会連合会のドッジボール大会がありました。残念ながら天候に恵まれず、午前中はグラウンド、午後は体育館での競技になりました。この大会は6年生にとっては最後の大会です。ただ私たち「古市場ドッジボール部」としては他のチームよりも大会にかける思いが違います。それは4年生の時から上級生が不在で2年間この仲間と戦ってきたからです。ちょうど2年前もこのメンバーで大会に出場しました。周りは皆6年生主体のチームです。結果は惨敗でした。勝つ事は厳しかったかもしれませんが、でもやっぱり負けたことは悔しかったです。

この日から今回のこの最後の大会は絶対に優勝して最高の思い出にする！と皆で誓いました。途

中で辞めたいと言う子もいたり喧嘩したり、放課後・練習前に何度も何度も皆で話をしてここに来るまで決して楽ではなかったけど「誰一人欠けたら意味がない、あの日誓った夢を皆で掴もう。」と…。私たち仲間の絆は強かったです。結果、集大成となるこの大会で最後まで全員で戦う事が出来最高の思い出が出来ました。そして「優勝」という言葉がついてきました。

仲間の大切さ、私たちの力を引き出してくれた指導者の皆様、温かく見守ってくれた保護者の皆様、大会を進行してくれた役員の皆様、ドッジボールを通じて色々な事が勉強になりました。中学校に行ってもこの思いを忘れずに未来に向けて頑張っていきたいと思います。



中高校生リーダー研修会

平成26年度中高校生リーダー研修会を平成27年3月22日(日)、川崎市青少年の家にて開催しました。

川崎市青少年育成連盟に加盟している4団体の中高校生が、互いの活動を紹介し合い、一緒に体験しながら学び、川崎市内の同じ仲間として交流していくことを目的としています。この研修のために中高校生や指導者が研修委員として集まり、会議を重ねて企画準備を進めてきました。

当日は、アイスブレイクやポートボール、各団

体の情報交換、そして、白昼のキャンドルファイヤーと、少人数ながらも楽しい交流の時間を持ちました。

今年度は、各団体の中高校生から研修委員となる人がなかなか集まらず、始動も遅くなってしまいました。場所の変更や日帰りプログラムという条件の中で、企画運営は大変困難なものでした。反省点は多かったものの、参加者からは「楽しかった。」「また参加したい。」という声が上がっていました。



幻想的な光の中で
みんなの心を
ひとつに
合わせました。



ポートボールを
汗をかきほと
楽しめました!



なごやかに
情報交換中



《感想》

研修委員長 ガールスカウト神奈川県第40団

遠藤夕葵

私が委員として中高校生リーダー研修会に携わるのは、三年前の中学1年生の時以来です。その時はまだ何も分からず、アドバイザーの方々から沢山のアドバイスや指導を頂き、どうにか当日までこぎつけたことを覚えています。

今年委員になろうと思ったのは、その時に何も出来なかった自分がとても悔しく、少しでも成長した自分で、もう一度一から計画を立てることに挑戦したいという気持ちがとても大きかったからです。第1回目の委員会の時は、「どうやって当日まで持っていこうか」「プログラムはどうしようか」と、色々考えていた事を覚えています。

しかし、今年の研修会は前例が無い事だらけで日程や、場所など様々な事が例年と違い、委員も戸惑い、手探りしながらの会議となりました。その結果、前日までプログラムに沢山穴が空いていて、このままでは到底当日を迎えられる状態ではありませんでした。

当日になっても、参加者に楽しんでもらう、他団体をよく知ってもらおうという気持ちが足りず、結果的に定番となっているプログラムに頼ってしまいました。

今回の研修会では、プログラムをひとつ完成させる事の難しさ、スタッフと連携をとる事の大切さを、学ぶ事が出来ました。今回の反省点を次回行われる研修会に、活かしたいと思います。

宮前区子ども会連合会JLC 有吉 真

今回は1日だけの活動で、全員と話すことはできませんでした。しかし、他区や他団体が行っていることが少しでも知ることができました。

次回は泊まりとのことなので、参加者全員でご飯を作ったりしてみたいです。また、黒川だけではなく、多くの場所で行ってみたいです。

今回、十数人という少ない人数だったので、それ以上の人数で行って盛り上げたいです。

高津区子ども会連合会JLC 草川志弥

来年度は黒川で宿泊をすると聞いたので、夜ご飯を作りたいです。また、黒川の自然の中でも活動したいです。

今回は川崎市青少年の家での活動でしたが、今日初めて会った人とも仲良くなることができました。宿泊ではなかったのですが、とても楽しかったです。また参加したいです。

第23回世界スカウトジャンボリー派遣隊始動

日本ボーイスカウト神奈川連盟 神奈川第1隊 隊長 安藤 聡

第23回世界スカウトジャンボリーが今年、山口県きらら浜で開催される。我々川崎からは、派遣隊として1隊、4個班が参加する予定で、この2月21日に結隊式を迎えた。神奈川第1隊の発足である。7月29日に開会式、8月7日に閉会式の10日間、世界のスカウトたちと総勢30,000人でキャンプを張る。一昨年開催された日本ジャンボリーの1.5倍の陣容だ。日本での大会開催は2回目。世界でも2回以上開催される国はボーイスカウトの祖国イギリス以外には数えるほどしかなく、アジア諸国では、はじめての快挙。初めて日本で行われた大会は朝霧高原で開催されたと聞いているが、40年以上も前のことである。日本での世界スカウトジャンボリーに参加できるスカウト達は、本当に幸運なのだ。

さて、ジャンボリーに参加すべく集まったスカウト達は、中高生年代の、笑顔を絶やさないう快活なスカウト達ばかり。結隊式終了後、早速、世界スカウトジャンボリーの概要を伝え、自分の思い、目標を書いてもらった。一人ひとりが、自分なりの書きっぷりで、思いをぶつけてきたわけだが、「挑戦する」「海外の友達をつくる」「キャンプ技能を身に付ける」「海外文化にたくさん触れる」「英語を使って話しをしてみる」など、はじまったばかりの隊集会なので当然のことだが、まだまだ目標があいまいだ。ただ、今はこれでいい。なにより

も彼らに敬意を表したいのは、動機はどうあれ、「チャレンジしよう」という意思をもってこの大会参加にエントリーしたその行動力なのだから。これから7月末出発までの隊活動の中で、彼ら一人ひとりが目標を具体化できるよう、班をみがき、技能をみがき、そして思いをみがいてもらう機会を作ってゆく。その時に改めてもう一度目標を書いてもらうことにしている。

彼らに期待するのは、この大会をきっかけに「世界」を基準とした視野を持ってもらうことだ。彼らが社会人になった時、国々の文化、宗教、習慣の違いを理解し、世界の調和に貢献しようという意思を持って行動できること。そして、そのために自己を鍛錬する意思を持つことなのである。これは、彼らが自分で学ばなければ実現しない。彼らがジャンボリー会場に立った時、それまで訓練してきた観察力・技能・知識で感じ取り、本当の意味で学ぶのだ。そして、そのコンテキスト（背景）を描くのが隊スタッフをはじめとする指導者とご家族、保護者の方々の役割になる。

さあ、第23回世界スカウトジャンボリー一番星スタート！



カッターの豆知識

川崎海洋少年団 山岡 修

このたびは「育連だより」50号の発刊おめでとうございます。

海洋少年団は、カッターと呼ばれるボートを漕ぐ海上訓練をします。カッターは、6人がオール（先が平たくなっている棒）を漕いで進ませる手こぎボートの一つです。カッターに乗り、海の自然を感じ、海に対する安全意識を高めることができ、カッターを漕ぐことで、みんなで協力することの大切さを体験でき協調性を育む事ができます。カッターは危険を伴う乗り物ですので、基本的な用語を初めに覚えてもらいます。普段の生活では使わない船の用語がありますので少し紹介をいたします。

カッターの左右の用語は、進行方向に向かって左側が「左舷(さげん)」、右側は「右舷(うげん)」と言います。左と右に船を感じさせる字の「舷」がつけただけですので覚えやすい用語と思います。

次に前後の用語ですが、船の前方(船首)を「おもて」と言います。しかし、船の後方(船尾)は「うら」ではなく、「とも」と言います。

カッターを含む船には、接岸(陸地と船をつなぐこと)するためにつなぐロープ(綱)が備わっていますが、このロープのことを「もやい」と言います。カッターを陸地につなげるために「おもてもやいを準備」と指示が出たら船首のロープをもって接岸の準備をすることです。

カッターでは、艇長(カッターの船長)の命令に従うことは、安全な航行のためにも絶対条件です。カッターに乗るときに艇長から「とも 右舷」と指示されたらカッターのどこへ行ったらよいかわかりますよね。

川崎海洋少年団は、今年発団50周年を迎えます。今後ともご支援ご協力よろしくお願ひいたします。

ハロウィンパーティ

ガールスカウト神奈川第48団 伊藤 千遥

わたしはハロウィンパーティでチョコ魔女のこっこうをしました。チョコ柄のマントにプチプチこんぼう材で作ったキャンディをつけました。かざりつけはホールのしょう面をかざりました。かざる場所が広くてたいへんでした。

一番楽しかったゲームはキムスゲームです。キムスゲームは、10秒間で机の上にあったものをおぼえて、布がかけられたら1つずつ答えていくルールです。

ほかにもランタンをさがすゲームやミイラゲーム、おり紙でかぼちゃをおったりしました。ゲームをして「トリック・ア・トリート」というとおかしがもらえました。もらったおかしはさいごにともだちといっしょに食べました。

ほかの団もきていて楽しかったです。



全国子ども会育成中央会議・研究大会に参加して

川崎区子ども会連合会 伊藤 義昭

2月20日から23日まで全国子ども会育成中央会議・研究大会が名古屋で開催されました。

初日の全体会では、動物写真家・小原玲さんの映像を通しての講演が行われました。かつては天安門事件や湾岸戦争などを取材していましたが、アザラシの赤ちゃんとの出会いを契機に報道写真家から動物写真家に転身されたそうです。25年間に及ぶカナダの流水の取材を通して地球温暖化による異変を目撃し続け、アザラシの赤ちゃんに及ぼす被害を目の当たりにして、私達は今、何をすべきか子ども達の視点、感性から問題提起をしてくださいました。

2日目の視察・体験コースは歴史探索コースを選択し、名古屋城、能楽堂、ノリタケの森（洋食器のパイオニア）名古屋市科学館（プラネタリウム）を見学しました。名古屋城では本丸御殿の工事中部分と完成部分を見せて頂き、また学生ボランティアの説明があり、大変有意義でした。加えて、近くの公園で“名古屋おもてなし武将隊”のパフォーマンスを見学しました。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仮装した人たちが、時には甲冑

ダンスをまじえ、分りやすく歴史をひもといてくれました。そのパフォーマンスには名古屋弁あり、外国人もいれば英国でのスタントもあり、好評でした。海外公演も行って名古屋のPRに一役買っており、今後の活躍を期待したいと思います。

3日目は名古屋から2時間余りの宇治市の伊勢神宮を参拝しました。20年に一度、お宮に隣接する敷地に建てかえ、御装束、神宝をすべて新調し神様のお遷りを願うということです。平成25年秋、第62回の1遷宮が執り行われ、美しい木肌のお宮が完成していました。また内宮、外宮の周辺には造園用材の檜などが計画的植樹されており、身も心も清められました。

最後に、おごそかな中にも、宮の棟の上にある男木、勝男木の金色の鮮やかさは印象に残りました。



60周年 ありがとう



ガールスカウト神奈川県第14団 レンジャー 今井 日南子

私は、神奈川県連盟60周年記念式典にサポートスカウトとして参加しました。夏のキャンプ以来の再会にレンジャー同士喜び合いました。

式典の練習では、トレーナーやリーダーの方々から立ち方や歩き方、並び方など一つ一つを優しく、時には厳しく教えてもらいました。また、詳しく知らなかった旗の意味を細かく教えてもらい、旗の前に立つと背筋が自然と「ピンッ」となりました。前日に見た本番の会場に圧倒され、歩く時

手と足が一緒に出ることが何度もあり、家の廊下で沢山練習をしました。本番は1部から3部まで成功を収め、式典が終わった後、ブラウニーのスカウトから「私も旗をあんな風にかっこよく持たたい」と言われてとても嬉しくなりました。

私の残りのスカウト生活は残り1年です。今回の式典やテンドーから今まで学んできたことを、年下の子たちに伝えていき、スカウト以外の人からも憧れられるような女性になりたいです。



川崎市立学校インターネット問題相談窓口（ネットの悩み相談しよう！）

子どもたちを取り巻くインターネット問題のトラブルについて、相談に応じています。

電話相談 044-844-3638

受付：平日 8:30~12:00 12:45~18:00 18:45~20:15

PCメール <http://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000027223.html>

携帯メール https://sc.city.kawasaki.jp/multiform/k/multiform.php?form_id=74

発行 川崎市青少年育成連盟
事務局 〒213-0001 高津区溝口1-6-10
生活文化会館（てくのかわさき）3階
TEL 044-811-2125 FAX 044-811-2126

青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、
川崎市青少年育成連盟事務局へ

印刷 有限会社 アキプリント社